

初心者コーナー

国際協力銀行のバイヤーズ・クレジット(B/C)の活用

1. 海外インフラビジネス展開が主流となる時代へ

日本政府は、2010年6月に新成長戦略を発表して以来、本邦企業によるグローバル市場開拓の促進のため、「パッケージ型インフラ輸出¹⁾」、「官民連携によるインフラシステムの輸出」等の施策概念を打ち出し、産業界の海外展開活動を積極的に支援しています。インフラシステムの輸出先は、主にアジア地域をターゲットと設定し、2020年に約30兆円規模のインフラシステム輸出を目標に掲げています。しかし、その輸出額が約10兆円規模である現状を鑑みると、あと5年で30兆円規模のインフラ輸出目標に近づくためには、政府による公的資金援助（政府開発援助：ODA）のみならず、民間資金やノウハウを活用したPPP事業/インフラ投資型事業などを展開してゆく必要があります。そのためには、企業の海外展開を支える金融支援の量的拡大と、何よりもインフラ海外展開の担い手となる企業、地方公共団体の人材育成が喫緊の課題となってきます。

本稿では、本邦企業の海外展開を多様な金融スキームで支援している（株）国際協力銀行（通称：JBIC）が提供する金融スキームの概要と、そのうちの一つである「バイヤーズ・クレジット（B/C）」について紹介します。

2. JBICによる金融スキームとB/C

JBICによる金融スキームの主なものには下表のものがあります。

表 JBICによる金融スキーム（一部）

金融スキーム	スキーム内容
輸出金融	日本企業による海外への機械・設備等の輸出ならびに技術の提供に必要な資金の融資
輸入金融	日本企業による資源等、重要物資の輸入に必要な資金を融資するもの。また、資源関係以外では、航空機輸入等、国民経済の健全な発展のために真に必要なものについては、保証制度により対応
投資金融	日本企業（中堅・中小企業を含む）が、海外において行う現地生産・販売事業やインフラ事業、海外M&A、資源の権益取得や開発事業等を行う際の資金の融資
事業開発等金融	日本の貿易・投資等、海外経済活動のための事業環境整備を図るとともに、外国政府、外国政府機関等が実施する事業に必要な資金の融資

「バイヤーズ・クレジット（B/C）」とは、本邦企業の機械・設備や技術の開発途上国への輸出を実現するため、JBICと市中銀行が協調融資の形態によりバイヤーに対して資金を貸し付ける契約を指し、輸出契約等の決済資金をバイヤーに対して直接貸付を行うものです。またこの場合、市中銀行は、融資部分の「代金等回収不能リスク」を補填するため『貿易代金貸付保険』を利用することになります。

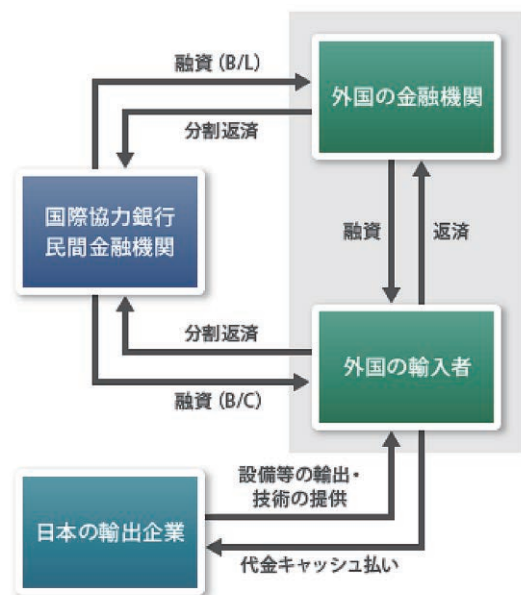


図 B/L及びB/Cのイメージ図
出典：（株）国際協力銀行HPより

3. バイヤーズ・クレジット（B/C）活用のメリット

B/Cを利用して本邦企業の機械や設備を海外へ輸出することのメリットの具体例として、汚水の浄化施設や発電設備等を始めとする各種プラントには、数多くの高度な技術が導入されており、その輸出は開発途上国の経済発展を促すだけでなく、国内産業の技術更新にも繋がります。また、プラント分野では、施設建設や維持管理のために必要な部品製造、供給面で下支えする中小企業活動の活性化への波及効果も期待されます。

今後、30兆円規模のインフラ輸出額を目指すためには、B/Cを含めた多様な金融スキームの有効活用が必須となってくるでしょう。

（海外支援室・首席研究員 伊藤不二夫）

1) 単なる受注・納入者として個々の設備・技術の輸出のみならず、インフラプロジェクトの事業権、又はその一部の確保により、事業運営に必要な設備・技術の導入につき、広く商圈（裁量と責任）を確保するビジネスモデルを推進すること